

2025 年度

薬学研究科
博士課程

一般入学試験(一次)

2 科目選択して回答してください

(有機化学・物理化学・生化学・生理学・栄養学・薬理学・公衆衛生学)

※採点対象の試験科目を○（まる）で囲んでください

専門科目

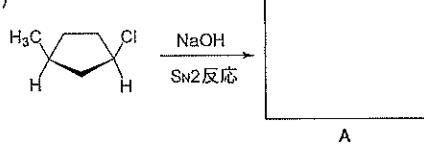
受験番号	
氏名	

評点	
----	--

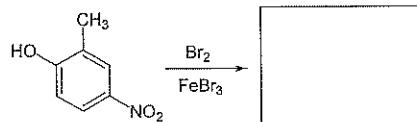
[試験科目] 有機化学

問1 次の各反応の主生成物 A～D の構造式を書きなさい。生成物 A, D については立体化学がわかるように書きなさい。

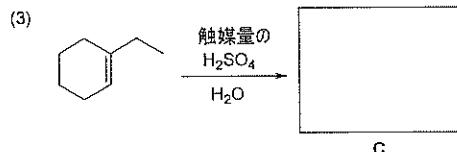
(1)



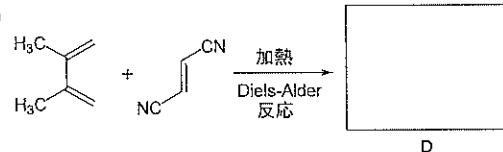
(2)



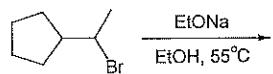
(3)



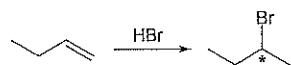
(4)



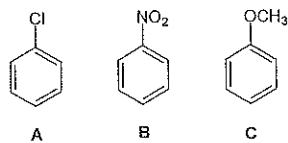
問2 次の E2 反応では 2 つの化合物が生成する。2 つの生成物の構造式を書きなさい。また、主生成物となると予想される化合物を○で囲み、予想した理由を記述しなさい。



問3 1-ブテンと HBr の付加反応では 1 つのキラル中心をもつ 2-ブロモブタンがラセミ体として得られる。この反応の反応機構を示して生成物がラセミ体として得られる理由を説明しなさい。



問4 次の化合物 A, B, C への芳香族求電子置換反応によるニトロ化の反応性を予想し、反応性の高い順に並べなさい。また、その理由を説明しなさい。



受験番号	
氏名	

評点	
----	--

[試験科目] 物理化学

問1 分子形のみが水相(*w*)から油相(*o*)に分配する場合、弱電解質の見かけの分配係数(K_{obs})は、水相の pH により変化する。弱電解質の分配性について下記の間に答えよ。

- 1-1) 弱酸の分子形濃度を[HA]、イオン形濃度を[A⁻]としたときの、 K_{obs} を表す式を真の分配係数(K)を用いて示せ。なお、分配平衡が成立したときの真の分配係数(K)は、 $K = \frac{[HA]_o}{[HA]_w}$ である。

1-2) 1-1)で解答した式を薬物の酸解離定数(p K_a)と溶媒の pH を用いて示せ。ただし、Henderson-Hasselbalch 式は p K_a の式から次のよう示すことができる： $pH = pK_a + \log \frac{[A^-]}{[HA]}$

1-3) p K_a =5.0 の酸性薬物がある。pH=5.0 におけるこの薬物の K_{obs} は 1.2 であった。この薬物の K および pH=6.0 の時の分配係数をそれぞれ求めよ。

問2 単純拡散による生体膜透過性におよぼす因子について知りうることを示せ。

受験番号	
氏名	

評点	
----	--

[試験科目] 生化学

設問 中性脂肪に関する次の文章を読み、以下の問い合わせに答えなさい。

中性脂肪は、脂肪酸と（①）のエステルで、肉、魚、食用油などの食品中の脂質や、ヒトの体内の脂質の大部分を占めている。主にトリアシルグリセロール（TG）の形で存在し、(ア) 動物由来の中性脂肪は、常温で固体である脂に分類されるものが多いのにに対し、植物由来の場合は液体の油に分類されるものが多く含んでいる。食品中の TG は、十二指腸において（②）とエマルジョンを形成した後、膵液中の（③）により加水分解され、リン脂質やコレステロールとともにミセルを形成して、小腸粘膜細胞に吸収される。その後、長鎖脂肪酸とモノアシルグリセロールは、小腸粘膜細胞中で再び TG を形成し、リボタンパク質である（④）に取り込まれ、リンパ管、胸腺、全身循環系を介して肝臓に運ばれる。

中性脂肪は、生体のエネルギー源として重要な物質であり、（①）は解糖系により、脂肪酸はミトコンドリアで（⑤）を受けて ATP 産生に関与する。（イ）（⑥）では、脂肪酸はアシル CoA に変換された後、酸化、水和、酸化、開裂の反応を順次受け、アセチル CoA と炭素数が 2 つ減少したアシル CoA となる。飽和脂肪酸の場合、1 回の（⑤）で、1 分子のアセチル CoA、FADH₂、NADH が生成される。アセチル CoA はクエン酸回路を介して、FADH₂ と NADH は電子伝達系・酸化的リン酸化を介して、それぞれ ATP 生成に寄与する。炭素数が 2 つ減少したアシル CoA は、再び（⑤）を受け、炭素数が偶数の脂肪酸は全てアセチル CoA に分解される。

問 1 文章中の①～④に当てはまる言葉を以下の選択肢から選びなさい。

選択肢

LDL	アシル CoA	リバーゼ	コレステロール	β 酸化	プロテアーゼ	胆汁酸
解糖系	グリセロール	アミラーゼ	アセチル CoA	HDL	酸化的リン酸化	キロミクロン

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

問 2 下線部（ア）の記述の原因について、中性脂肪を構成する脂肪酸の違いに着目して説明しなさい。

問 3 下線部（イ）の記述に基づき、1 モルのステアリン酸（18:0）が完全に分解されると何モルの ATP が生成されるか、計算過程も含めて答えなさい。なお、1 モルのアセチル CoA、FADH₂、NADH からそれぞれ 10、1.5、2.5 モルの ATP が生成され、脂肪酸のミトコンドリアへの輸送の際に 2 モル等量の ATP が消費されるものとする。

受験番号	
氏名	

評点	
----	--

[試験科目] 生理学

以下の文を読み、問1～問2に答えなさい。

問1 血圧調節には血管抵抗と心拍出量が関与している。動脈血圧(P)、血管抵抗(R)、心拍出量(Q)の間には、オームの法則^注が理論的に成り立つ。また、毎分心拍出量(Q)は、心拍数と1回拍出量との積で求められる。心拍数は、交感神経と副交感神経両方の制御を受ける。一方、一回拍出量は静脈還流量や交感神経活動による心収縮力の影響をうける。このように、血圧は血管抵抗や心拍出量を制御することにより恒常性が維持されている。

注:オームの法則とは電圧、電気抵抗、電流の間の関係

1-1) 下線部に関して、動脈血圧(P)、血管抵抗(R)、心拍出量(Q)の関係式を書きなさい。

1-2) 血液が層流をつくって血管内を流れる場合、定常状態で圧力 P と流量 Q の間には次式で示すポアズイユの法則が成り立つ。

$$P = \frac{8L}{\pi r^4} \times \eta \times Q$$

r: 血管の半径、η: 粘性係数、L: 長さ

オームの法則とポアズイユの法則から血管抵抗(R)と血管半径(r)の関係式を書きなさい。

問2 「ヒートショック」とは、急激な温度変化によって脳卒中や心筋梗塞、めまいやたちくらみなどを引き起こす現象のことを行う。11月から4月にかけて特に65歳以上の高齢者が入浴中に意識を失い、そのまま浴槽内で溺れて亡くなるという不慮の死亡事故が多く発生している。令和3年人口動態統計(2023)によると、高齢者の浴槽内での不慮の溺死及び溺水の死亡者数は4,750人で、交通事故死者数2,150人の約2倍である。

2-1) この事故の原因の一部は血圧の変動により説明できる。以下の2つの状況に関して血圧が変動する理由を答えなさい。

- ・暖房のきいた暖かい部屋から室温の低い脱衣所や浴室に入る

- ・寒い浴室で急に44°C以上の温度のお風呂に入る

2-2) ヒートショックが高齢者で多い理由を答えなさい。

受験番号	
氏名	

評点	
----	--

【試験科目】栄養学

1. ビタミンAに関する以下の問いに答えなさい。

- (1) 次の中からビタミンAの活性型を一つ選びなさい。
- ① *all-trans*-retinoic acid
 - ② *all-trans*-retinol
 - ③ 1,25-dihydroxycholecalciferol
 - ④ phylloquinone
 - ⑤ pyridoxine

解答欄

- (2) ビタミンAの吸収と代謝について説明しなさい。

2. アミノ酸に関する以下の問いに答えなさい。

- (1) 次の中からたんぱく質を構成しないアミノ酸を一つ選びなさい。
- ① taurine
 - ② alanine
 - ③ valine
 - ④ methionine
 - ⑤ proline

解答欄

- (2) 非必須アミノ酸と必須アミノ酸について説明しなさい。

受験番号	
氏名	

評点	
----	--

[試験科目] 薬理学

1) 細胞は、細胞膜を介して物質の取り込みや排泄を行うが、細胞膜は脂質二重層により構成されているため、水溶性物質は透過できず、トランスポーターと呼ばれる特別な膜輸送タンパク質を必要とする。様々な疾病治療において、これらトランスポーターを阻害する薬物がある。次の薬物が阻害するトランスポーターを下の①～③から選択し、さらに、そのトランスポーターと薬物について知ることを記述しなさい。

薬物	トランスポーター
(1) イプラグリフロジン	() ① $\text{Na}^+ - \text{Cl}^-$ cotransporter
(2) ヒドロクロロチアジド	() ② Serotonin transporter
(3) フルボキサミン	() ③ Sodium glucose cotransporter 2

(1)

(2)

(3)

2) 次の酵素の阻害薬を下の薬物①～⑩のうちから選択し、その薬効を記述しなさい。

酵素名	阻害薬	薬効
HMG-CoA reductase	() []	
Angiotensin converting enzyme	() []	
H^+,K^+ -ATPase	() []	
Inositol monophosphatase	() []	
Dipeptidyl peptidase 4	() []	

阻害薬

- | | | | | |
|------------|-----------|------------|---------|-----------|
| ① アトルバスタチン | ② アロプリノール | ③ インドメタシン | ④ オザグレル | ⑤ オメプラゾール |
| ⑥ カプトプリル | ⑦ ジゴキシン | ⑧ シタグリップチン | ⑨ セレギリン | ⑩ 炭酸リチウム |

受験番号	
氏名	

評点	
----	--

[試験科目] 公衆衛生学

S県健康増進課には、保健師、管理栄養士の職員が常駐している。これらの職員は、国民健康・栄養調査に準じた方法で、県内から統計的に十分な対象者数を得て、県民健康・栄養調査を毎年11月に実施している。

これまでには1日間の食事記録法による食事調査を行い、県民摂取量の代表値を得て、前回調査からの変化を評価できるように実施してきた。今回の調査目的は、経年比較に加え、「日本人の食事摂取基準 2020年度版」を用いた摂取状況のアセスメントを行うことである。

問1 調査目的を達成するための食事調査方法である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1)全国規模のコホート研究で実績のある食物摂取頻度調査法
- (2)S県で妥当性が確認された食物摂取頻度調査法
- (3)不連続の複数日の食事記録法
- (4)従来と同じ1日間の食事記録法

問1

問2 1,000 kcal当たりの食塩摂取量について、男女とも等分散の正規分布であることを確認した上で、今回と前回の平均値の差を成人男女別に比較したところ、表のような結果が得られた。統計的な有意水準は両側5%とした。評価結果として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1)男性は、摂取量が有意に減少した。
- (2)女性は、摂取量が有意に減少した。
- (3)男女とも、摂取量は有意に減少した。
- (4)男女とも、摂取量に有意な変化は見られなかった。
- (5)男女とも、変化を判断できなかった。

問2

表 S県の成人男女における食塩摂取量の経年比較

(g/1,000 kcal)

	今回と前回の平均値の差	差の95%信頼区間
男性	-0.64	-0.84 ~ -0.04
女性	-0.44	-1.36 ~ 0.08

問3 問2のアセスメントを踏まえて、実際にどのような対策を講じたら良いか説明しなさい。